

## 創立60周年記念式典 校長式辞

矢の原台の木々も鮮やかに色づき、見上げると、秋晴れの空に校舎の白い曲線が美しく映えています。この佳き日に、島根県立松江南高等学校創立60周年式典を挙げていただくことは、この上ない喜びでございます。

本日は、記念事業実行委員会の門脇浩泰会長を初め委員の皆様、記念講演講師の山中敏正先生、前校長の津森敬次先生にご臨席いただきました。誠にありがとうございます。本来ならば、全校生徒が一堂に会した体育館に、本校教育に携わってくださる皆様や卒業生、旧職員など多くの方々をお迎えして、感謝の思いをお伝えすべきところですが、昨今の状況を鑑み、縮小した形での開催となりました。教室で視聴している3年生の皆さん、ご案内できなかった皆様にはどうかご容赦いただきたく存じます。なお、式典に寄せて、島根県教育長 野津建二様から頂戴した祝詞を、本日のパンフレットとともにお届けしています。お礼にあわせご紹介申し上げます。

この式典では、生徒会・文化部を中心とする在校生が大きな力になってくれています。大会など多忙な時期にかかわらず、熱心にアイデアを出し合い、早朝あるいは遅くまで練習や作業に打ち込む姿がありました。

振り返ると、長期にわたって活動に厳しい制限がかかる中でも、生徒・教職員は、授業に行事に部活動に、今できることを工夫して取り組み、大きな成果と成長を見せてくれました。皆さんのひたむきな姿やはじける笑顔がどれだけ私たちを励ましてくれたかわかりません。本当に、ありがとう。

本日の記念に新聞部が制作したのが、お手元の60周年特集号です。1面には、南高を語る上で欠かせないこの一言が掲げられています。

「我らの前に道はない」第1回入学式で木島校長が述べられた、決意と激励の言葉です。昭和36年4月、あるのは校舎1棟のみ。施設や組織、部活動はもちろん、校訓や校歌に至るまで、まさに「何もない」ところからの歩みがどれほど厳しく、しかし、どれほど創造進取の気概に満ちた逞しいものであったか、その一端が紙面から伝わってきます。

以来、本校が驚くべきスピードとエネルギーで文武両道を充実させていった背景には、当時の教職員・生徒の皆様の努力はもちろん、環境整備に奔走された方々の存在があったことを忘れてはなりません。教育委員会、PTA、矢の原会、矢の原教育振興会など、様々な立場から南高を支えようとする熱い思いがありました。それが体育施設、補習科、寄宿舎、食堂、記念館などの形となり、今に続いています。このたびも、厳しい状況下にかかわらず、「南高のために」と全国各地からご厚志をお寄せいただきました。そのおかげで、新たな時代の学びにふさわしい施設・設備が整い、日々活用されています。

私たちはこの2年にわたる不安や辛抱をとおして、「当たり前は当たり前ではない」ということに気づき、物事を見つめ直しています。本校60年を支えてきた、「決して当たり前ではない」多くの方々の思いを受け止め、感謝と責任をもって次の世代に受け継いでいかねばならない、改めてそのことを胸に刻みたいと思います。

「新たな時代の学び」、先ほどそう述べましたとおり、南高では「60年目の改革」として新しい挑戦が始まっています。「スーパーサイエンスハイスクール」は指定2年目を迎え、データサイエンスを学びの柱に据えて、より高度で探究的な学びを進めています。この春には、昭和44年開設の理数科を発展的に改編した、探究科学科2クラスがスタートしました。

さらに、学年・学科を問わず、学びの中に大学や企業、自治体や公民館など、地元から県外、国外まで、多様な分野の方々との出会いがあり、探究心や好奇心を刺激していただいているのも特色の一つです。生徒たちが主体的に学ぶ楽しさを知り、己の可能性を見つけ将来の道を拓いていく、そんな学び舎を目指し歩んでまいります。

本校はこの春までに、22,053名の卒業生を送り出しました。

普通科18期生の一人として高校生活を振り返るとき、様々な壁にぶつかり自分の弱さに向き合った日々がよみがえります。それでも、私たちの世代が「ベランダ廊下の校舎」「記念館2階の図書館」「学食」といった言葉で一瞬にして当時に戻り、何時間でも語り合えるように、ここには友や恩師、学問とのかけがえのない出会いがあり、心の財産が生まれました。時代を経て校舎や学びのスタイルが変わっても、高校とはやはりそのような場所なのではないでしょうか。どうかわが後輩たちも壁を恐れず、仲間と共に夢を追い「三とせの青春」を謳歌してほしいと心から願います。

結びにあたり、南高の絆とも言える素晴らしい校歌を生んでくださった初代校長 木島俊太郎先生、南高精神を象徴する校訓を定められた二代校長 飯塚一雄先生を初め、本校教育に情熱を注いでこられた皆様に、心からの感謝と敬意を捧げます。

教職員・生徒一同、これからも誇りと責任を胸に邁進することをお誓いし、式辞といたします。

令和3年11月6日

島根県立松江南高等学校

校長 倉崎千草